

ごあいさつ

養蜂の世界にCSAシステムを取り入れたHoney & Herb CLUBもおかげ様で7年目となりました。農薬（ネオニコチノイド系殺虫剤）被害が顕著に出た2013年がスタートでした。ミツバチたちが神経系を冒されて苦しみながら死んでいきました。ほぼ全滅に近いほどの被害でした。巣箱内のハチミツには極々微量の農薬が含まれている可能性があります。ミツバチたちは即死ではなかったので、検出されないかもしれない程度です。その年の農薬の影響と思われる傾向が出た後のハチミツは全て破棄し販売しませんでした。2013年は、農業系だけではなく一般家庭用にも幅広くネオニコチノイド系の殺虫剤が商品化された年でした。その後、ネオニコチノイド系殺虫剤とみられる影響はほとんどありませんが、影響と見受けられる群のハチミツは出荷せず、また、ミツバチたちをみすみす全滅させることなく、リカバリーする手法も確立しました。

農薬の影響がひと段落したかと思っていたら、今度は気候変動の影響が大きくなってきました。2017年頃からぐんぐんとスピードアップし、もはや気候危機とも呼べるレベルです。こればかりは、人の手では太刀打ちできないので農薬以上の大きな影響です。ミツバチたちが受ける環境の影響は、やがて、わたしたちが食べる食べものに現れます。ミツバチたちは、わたしたちが暮らす環境の変化を食卓に伝えてくれているように感じています。

今後の気候危機を推測すると、大雨、干ばつ、猛暑、冷夏、台風・・・どれもが観測史上記録的な・・・という極端な天候になるかもしれません。こればかりは、神頼みしかないような気がしています。

できることは・・・植えること。

Honey & Herb-CLUBでは、CSAシステムを導入し、これまで多くの皆さんに支えられて養蜂活動・蜜源増殖を図って参りました。第一回目のときに植えたニセアカシアも、昨年から少しづつ花蜜も入りはじめています。皆さまのエシカルな活動は、植樹した蜜源樹木やその都度更新が必要なハーブの株など・・・養蜂にて飼育するミツバチだけではなく、在来種のハナバチをはじめとする昆虫たちを含む環境への寄与として年々充実しています。

2018年は悪天候のため種子を付けなかった木々がとても多かったです。2019年は、ちょうど花期の時に好天に恵まれて種子がたくさん採れました。今期（2020年度）はさらに植え続けます。近年の災害や開発で傷つき多くを失った樹木や放棄農地の再生など、持続する養蜂環境の整備のため、これまで以上の樹木の栽培・植林を手がける予定です。

皆さまのご協力お願いいたします。

Honey & Herb CLUB 担当：尾形 剛弥

*** 養蜂もオーガニックに** 養蜂で用いられる防ダニ剤は蜜蝋に、抗生物質はハチミツに移行しやすい性質があります。

自然界のミツバチは薬に頼らずに生きています。では、なぜ養蜂においてはこれらの薬に頼ることになるのでしょうか？わたしたちは、自然のままにミツバチたちが健康に過ごせることが何よりと考え、自然本来の多様な植物による養蜂環境の創造に努めています。ミツバチにとって好ましいフィトセラピー環境を作るために必要なハーブの栽培、周辺環境の整備を将来へと繋ぐバトンとして、蜜源樹木の栽培・植樹などの必要とされる作業をCSAを導入し、CLUB会員の支援により活動しています。

*** 養蜂では珍しいCSA** アメリカではじまり、日本でもオーガニック（有機農業）の支援として広まりつつあるCSAですが、養蜂業界ではまだまだ珍しい取り組みです。

養蜂や農業などの生産の現場では、効率よく生産を図ろうとすると、どうしても合理化が必要になります。有機農業や自然養蜂の場合は、環境に大きな負荷を与える合理化を図る資材（化学肥料・農薬）は使いません。そのため、とても手間（労力）がかかります。しかし、自然に近い田園や山あいにおいて循環型の生産システムに切り替えていかないと、持続する生産環境となりません。後世へと繋ぐ大切な資源が負の遺産になってしまうのです。